

【談話】

ロシアによるベラルーシへの戦術核兵器配備に反対する

2023年3月30日

核戦争に反対する医師の会（反核医師の会）

今月25日、ロシアのプーチン大統領は戦術核兵器を隣国ベラルーシに配備することを表明した。プーチン大統領は同発表において、既に核弾頭を運搬する航空機10機と、核兵器を発射可能なミサイルをベラルーシに引き渡したとも発言している。

プーチン大統領は今回の決定について、米国が核兵器不拡散（NPT）条約に反して欧州諸外国に核兵器を配備していることを例に挙げて核配備の正当性を主張している。

米国や欧州諸国の核配備については、NPTに違反であり、引き続き協議の場で解決に向けた議論を進めるべき問題である。これをもってベラルーシへの核配備を正当化することはできない。さらなる威嚇で対抗しようとするロシアの姿勢は、一層の緊張を煽り、一つ間違えば人類を核戦争の恐怖におとし入れるものであり、断じて許されるものではない。

プーチン大統領は、自身が今月21日に署名した中ロ共同声明においては、「すべての核保有国は、自国領土外に核兵器を配備すべきではなく、領土外配備の核兵器をすべて撤去すべきだ」との立場を表明している。

それにも関わらず、自身の発言も反故にして核配備を進め、核戦争のリスクをさらに高めることは、核兵器国としてあまりに無責任である。

ウクライナ、および世界の平和を実現するために必要なのは今すぐのロシア軍のウクライナからの撤退である。核兵器を恫喝に利用した軍事的対立の拡大では、国際社会を破滅に導くことになる。

我々は命と健康を守る医師・歯科医師の団体として、ロシア軍がウクライナからただちに撤退することを求めると共に、ロシアによるベラルーシへの戦術核兵器配備に強く反対するものである。